

〈監修〉西川 典子先生

(順天堂大学医学部 脳神経内科 准教授)

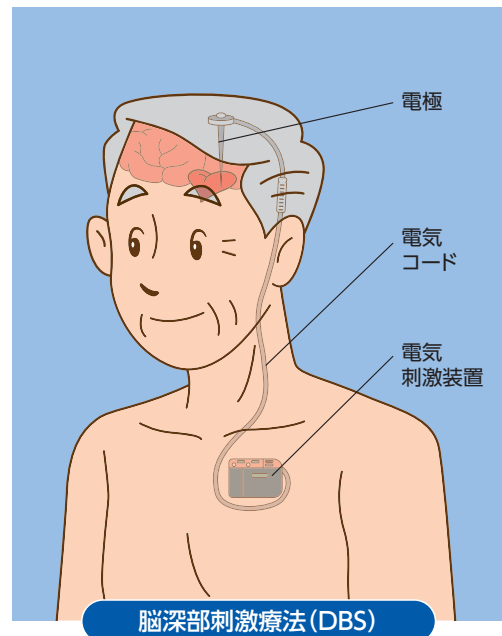
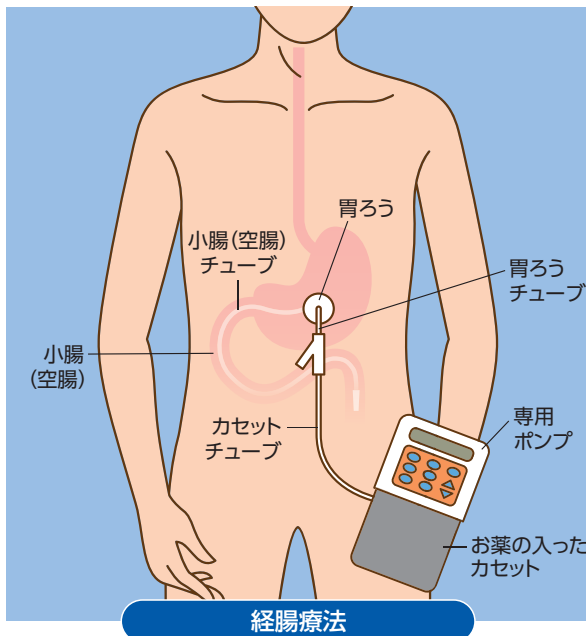
…………急に動けなくなることがあります。どのように対処すればよいでしょうか？

お薬の効き目が切れる時間帯に動けなくなるウェアリングオフが現れた場合には、お薬を飲む時間や回数を調整したり、他のお薬と組み合わせたりすることで改善できる可能性があります¹⁾。また、小腸にレボドパを直接ポンプで注入する経腸療法^{2,3)}、脳に電極を埋め込み、電気刺激によりウェアリングオフなどの進行期の症状を改善する脳深部刺激療法(DBS)⁴⁾が行われることがあります。

時間帯に関係なく動けなくなる場合には、自己注射のお薬を使うことがあります¹⁾。

このような対処法を希望される場合は、主治医にご相談ください。

●経腸療法と脳深部刺激療法(DBS)



…………ウェアリングオフの出始めには、体にどのような変化が現れますか？

次の回のお薬を飲む前や、お薬を飲んでから効き出す前に、体の動きが悪くなります(脚の重さを感じられて歩きにくくなる、など)。オフではしびれや痛み、気分が沈むなどの非運動症状も悪化することがあります。

通常、レボドパは1日3回毎食後に飲むことが多いのですが、朝食と昼食の間に比べると、昼食と夕食の間の方が時間が長くなります。そのため、夕食前にお薬の効き目が切れ、体の動きが悪くなることが多いようです⁵⁾。

…………お薬の調整でいったん良くなっていたウェアリングオフがまた悪化しました。どのように対処すればよいでしょうか？

ウェアリングオフの一番の原因は、パーキンソン病が進行することです。そのため、いったんお薬の調整で調子が良くなっても、しばらくするとまた悪化することがあります。もちろん、そのような場合にも、再びお薬を調整することで対処できます⁵⁾。



…………ジスキネジアが心配で仕方がありません。

ジスキネジア(お薬を飲んでからしばらくすると、体が勝手にくねくねと動いてしまう症状)は周りから見てよくわかる症状のため、外出時などに出ると困ると思われる患者さんが多いのではないのでしょうか。ただ、実際の治療では、ジスキネジアを心配するあまり、治療できるウェアリングオフをそのままにしないことが大切です⁵⁾。決して、自分で勝手にお薬を中止せず、主治医や薬剤師の指示を受けるようにしてください。



…………家族がパーキンソン病です。毎日の生活で気をつけることを教えてください。

ご本人ができることは、ご本人に任せるのが基本です。時間がかかっても自分でできることがわかれば、日々の生活に自信が持てるようになります。ただ、危険を伴う場合には、積極的に手伝います⁶⁾。また、パーキンソン病では動作が遅くなるがありますが、ご本人のペースに合わせるようご配慮ください。

日常のちょっとした工夫も大切です。症状以外の明るく楽しい話題を取り上げる、家事や買い物を一緒にする、身ざれいにしておしゃれをする、明るい色の服を選ぶなどもご本人の体と心によい影響を与えるでしょう。また、転倒のおそれもあるので、一緒に歩くときは腕を組んで歩くこともお勧めします。このほか、芸能、スポーツ、音楽、旅行などの趣味の活動を続けることは、体と心のリハビリテーションになるので⁷⁾、続けられるよう応援しましょう。

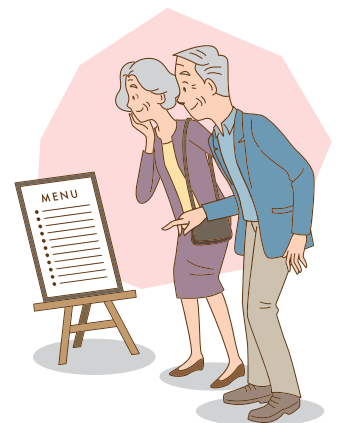
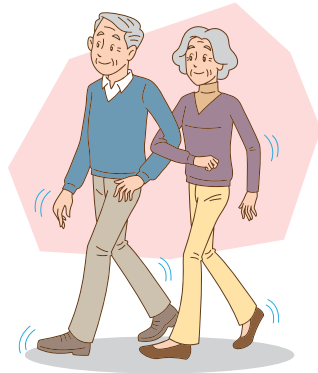
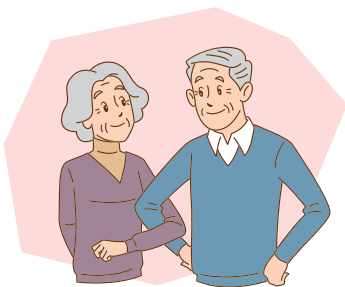
●毎日の生活で気をつけていただきたいこと

基本的な考え

- ・ご本人にできることは、ご本人に任せる
- ・ご本人のペースに合わせる

日常のちょっとした工夫

- ・芸能、スポーツ、音楽、旅行などの趣味の活動を応援する
- ・積極的に外出する
- ・症状以外の明るく楽しい話題を取り上げる
- ・家事や買い物を一緒にする
- ・身ざれいにしたり、おしゃれをしたりすることを勧める
- ・一緒に歩くときは腕を組んで歩く



西川 典子先生
からのコメント

ウェアリングオフでは運動症状だけでなく感覚症状や精神症状も悪くなることがあります。日常生活に支障のあるジスキネジアやオフを減らすためには内服薬の調整が重要ですが、持続的な経腸療法・脳深部刺激術も選択肢となります。ご自分の体調に合わせて、ご家族とおしゃれをして外出するなど生活を楽しむことも大切です。

参考資料

1) 武田篤(柏原健一ほか編)：みんなて学ぶパーキンソン病。南江堂、東京、pp22-23、2013。
2) 長谷川一子：脳21。19(4):408-410、2016。
3) 柏原健一(監修)：パーキンソン病のことがよくわかる本。講談社、東京、pp52-53、2015。
4) 前田哲也(柏原健一ほか編)：みんなて学ぶパーキンソン病。南江堂、東京、pp58-60、2013。
5) 斎木英資(平成28年度神経変性疾患領域における調査研究班編)：パーキンソン病の療養の手引き。pp19-26、2016。https://plaza.umin.ac.jp/neuro2/parkinson.pdf(最終アクセス日:2023年7月11日)

6) 前田哲也(柏原健一ほか編)：みんなて学ぶパーキンソン病 改訂第2版。南江堂、東京、pp100、2020。

7) 作田学(監修)：パーキンソン病の最新治療とリハビリのすべて 初版。日東書院、東京、pp188-189、2016。